

国境なき医師団日本 「緊急チーム」 募金 支援実績
(2022 年)

2023 年 7 月

国境なき医師団日本「緊急チーム」募金に 2022 年 12 月 31 日までに入金が確認された寄付は、計 53,835 件、888,868,865 円となり、以下の緊急援助活動に配分されました。

●活動国・地域別 支援額内訳 (2022 年)

活動国・地域	「緊急チーム」 募金 支援金額	活動内容
ナイジェリア	361,360,452 円	ナイジェリア北西部での深刻な栄養危機を受け、カツィナ州で行っていた栄養治療プログラムを強化。通院栄養治療センター、入院栄養治療センターを追加で開設し、急性栄養失調児の治療を行った。
ウクライナ	148,148,160 円	2022 年 2 月にロシアとの戦争が激化。ウクライナ東部・南東部での激しい戦闘から逃れ、ドニプロやザポリージャ周辺の避難所で過ごしている人びとに、移動診療を提供。慢性疾患などで定期的に医療を必要とする人びとの治療や、心理的応急処置などを行った。
チャド	103,753,257 円	スーダンの情勢不安を受け、スーダンからチャド東部に避難する人が相次いだ。栄養危機に対応するとともに、難民キャンプ内のトイレ設置や給水施設の改修などを行った。また 2021 年から続いている黄熱病への対応や、アドレの町でははしかの予防接種活動も実施した。
アフガニスタン	88,113,102 円	2021 年に武装勢力タリバンが実権を掌握して以降、国際的な援助の凍結などにより深刻な医療不足が続いているアフガニスタン。ヘラート州にて、2021 年から引き続き新型コロナウイルス感染症の対応を行うほか、はしかへの緊急対応も実施した。

イエメン	83,556,108 円	イエメンでは 8 年以上続く内戦で医療体制が危機に瀕している。スタッフや医薬品不足が深刻化する中、新型コロナウイルス感染症対応を実施。コロナ治療センターで重症患者を受け入れ現地の保健省を支援したほか、南西部のアデンではアル・サダカ病院をはじめ 3 拠点と協力してワクチン接種や感染予防・管理、臨床検査などを行った。
コンゴ民主共和国	67,585,845 円	南部の旧カタンガ州において、はしかの流行頻度を減らし感染拡大を抑えるため、感染症対応改善プロジェクトを実施した。現地の保健省と協力して感染症サーベイランス（調査・監視）戦略を強化。また、ワクチン 100 万回分を確保するとともに予防接種キャンペーンを展開した。
マラウイ	23,308,441 円	台風アナによる洪水災害で約 90 万人が被災した際は、コレラやマラリアのまん延防止に向けて緊急援助を実施。塩素や蚊帳などの物資配布に加え、南部のンサンジェ県では清潔な水の供給やトイレの設営など公衆衛生の改善に取り組んだ。南部の大都市ブランタイヤでは、新型コロナウイルス感染症患者専門の仮設病院を設置した。
ハイチ	13,043,500 円	2021 年 8 月の大地震で被害の大きかった南西部のグランダンス県において緊急援助を継続。また、北部のカパイシャン市では、ガソリンを運ぶタンクローリーが横転し爆発した事故で首都ポルトープランスから緊急出動。重症の火傷患者を治療した。

※緊急援助活動には、「緊急チーム」募金に他の寄付を加えた金額を日本からの支援金として送っています。支援金の総額は、国境なき医師団日本『活動報告書 2022 年度版』の財務報告をご参照ください。

<http://www.msf.or.jp/library/annualreport/>